季刊マーメイド

逗子市立図書館報
第７号
2015 年 2 月 4 日発行
逗子市立図書館
逗子市逗子 4-2-10
046(871)5998
（電話案内サービス）

逗子の歌・こぼれ話

真白き富士の根

明治四十三年、逗子開成中学生の乗るボートが七里ガ浜沖で転覆し遭難するという痛ましい事故がありました。真白き富士の根は犠牲者の霊前に捧げるために作られた歌です。邦題「夢の外」で知られたアメリカの作曲家インガルスの曲「When We Arrive at Home」に詩をつけてうまれました。

逗子海岸からの江の島・
富士山の遠望　大正末期

作詩をした三角錫子（みすみすずこ）は当時鎌倉女学校の教師をしており、逗子開成中学の近くに住んでいました。犠牲となった少年たちと親交があった三角錫子は、事故を知り少年たちの死を悼んで詩を書きあげました。

曲は法要の席で鎌倉女学校の生徒によって歌われ、参列者の涙を誘いました。

真白き富士の根

三角錫子　作詞
インガルス　作曲

真白き富士の根
緑の江の島
仰ぎ見るも　今は涙
帰らぬ十二の
雄々しきみたまに
捧げまつる　胸と心

✍

「横須賀線逗子駅のプラットホームに立つとどこからともなく真白き富士の根のメロディーがながれてくるのに気づく。それを聞きながらちょっといいメロディーだなと思ったりする…」

（『好きな歌・嫌いな歌』　団伊玖磨著より）

「真白き富士の根」は昭和三十七年頃、逗子駅に隣接した逗子信用組合の屋上から流れる時を告げるオルゴールの曲として使われるようになりました。

逗子駅を中心にゆったりと流れるメロディーは生活の一部になり人々の心に刻まれました。

平成になるとオルゴールの音は喧騒にかき消されるようになり、逗子信用組合の閉鎖とともにひっそりその役目を終えました。

✍

「オルゴールの時計のメロディーが夜風にのってとぎれとぎれに聞こえてくる。私は今晩もそれで時計の針を合わせる」

（『逗子のナツメロ』吉村公三郎著　逗子道の辺史話第四集より）

（「真白き富士の根」の根は嶺と表すものもありますが、作詩者三角錫子が書いた通り根と表記しました。）

あそび歌

まりつき、お手玉、メンコ、なわとび。一昔前、夢中になって遊ぶ子どもたちの姿を空き地や路地の奥で見かけました。古くから伝わる遊び歌を集めてみました。地域や年代によって少し違うようです。

＊

まりつきうた（『逗子市誌』より）

山王のお猿さんは
赤いおべべが大すきよ
ててしゃん　ててしゃん
ゆうべえびすこうに
呼ばれて行ったら
鯛の吸い物　おざいのかばやき
一ぱいおすすれすうすれ

＊

お手玉唄（『逗子市史』より）

おひとつおとして　おさらい
おふたつおとして　おさらい
おみっつおとして　おさらい
おてしゃみ　おてしゃみ
おてしゃみ　おとしておさらい

＊

なわとび唄（『逗子雑記４』より）

ゆうびんやさん　はくらんかい
もうかれこれ十二時よ
一時二時三時・・・十二時だ

さくら貝の歌

さくら貝は淡いピンク色の赤ちゃんのつめのような美しい貝です。以前は逗子の海岸でもよく見つけることが出来ました。鎌倉に住む作曲家の八洲秀章（やしまひであき）は、由比ヶ浜の海岸のさくら貝に十八歳で死んだ初恋の女性の面影を想い浮かべ短歌を作りました。

その歌を逗子町役場に勤める友人土屋花情（つちやかじょう）に託し作詞を依頼しました。

花情は逗子の浜を歩いては構想を練りました。

出来あがった歌詞に八洲が曲をつけ、昭和十五年レコードに吹き込まれました。しかし戦争の影響で発表されることはありませんでした。

さくら貝の歌

土屋花情　作詞
八洲秀章　作曲

美わしき　さくら貝ひとつ
去りゆける　君に捧げん
この貝は　去年（こぞ）の浜辺に
われひとり　拾いし貝よ

さくら貝の歌が全国に知られるようになったのは、作品が出来てから九年たった昭和二十四年のことです。ＮＨＫのラジオ歌謡で流れると、多くの人々の心を打ち大ヒット曲になりました。

平成三年十一月浪子不動前の公園に歌碑が建てられました。

歌碑はさくら貝の歌にちなみピンク色をした御影石製で歌詞は土屋花情の直筆のものです

さくら貝の歌の碑

（高養寺（浪子不動）前、緑地）

八洲秀章は逗子市歌の作曲者でもあり逗子とは縁の深い人です。

いかとり歌

小坪は鎌倉時代から漁業が盛んで夏から秋にかけて、イカ採り舟が沖に出るころは、勇ましいかけ声が浜いっぱいにあふれました。いかとり歌はそんな小坪に伝わる美しい子守唄です。船が出漁した夜、沖に揺れるいさり火を見ながら、子どもを寝かしつけるために歌われたと言われています。

現在、小坪の浜は埋め立てられ風景はすっかり変わってしまいいかとり歌を歌える人も少なくなってしまいました。

昭和五十年頃フォークグループのダ・カーポによって現代風にアレンジされ、ヒットしました。

いかとり歌

沖に見えるは
烏賊（いか）とり舟か
さぞや寒かろうよ
冷たかろうヨーイヨイ
今朝もはよから
この浜づたい
ねんねこねるまでよ
守仕事ヨーイヨイ

埋めたて前の小坪海岸

✿逗子の歌の一部を紹介しました。ほかにも古くから伝えられた歌がたくさんあります。

主な参考資料

『真白き富士の嶺』　村上尋著　Fム
『逗子開成中学校　七里ガ浜ボート遭難事故百年忌　記念誌』逗子開成中学校・高等学校校長(年史編纂委員長)袴田潤一編著　785ズ
『逗子市誌　第四集追補（二）』29.Zズ 4-3
『逗子雑記４』　森谷定吉著　29.Zモ 4
『逗子市史　別編１　民俗編』213.7ズ 3-1-1
『かながわのうた』　神奈川県教育庁文化財保護課編著　767カ
『愛唱歌ものがたり』　読売新聞文化部著　767ア
『わたくしたちの小坪風土記(改訂版)』　小坪地区青少年健全育成推進会　29ワ
『神奈川の歌をたずねて』　奥村美恵子著　767オ